

# 我が家の フラワー

## 17 ペチュニア

ペチュニアはブラジル、アルゼンチンなどが原産地のナス科の非耐寒性1年草です。花色が豊富で花期が長く、比較的育てやすいことから、夏の花壇やプランターを飾る草花として最も多く利用されているものの一つです。また、最近人気があるサフィニアは、ペチュニアの原種の交配から育成された品種なので丈夫で育てやすく、小輪ですが花つきも極めて良いのが特徴です。



### 【管理のポイント】

植え場所：日当たりと水はけの良い場所に植えます。

肥料：長期間にわたり生育・開花するので、月1回、1㎡当たり50-100gの緩効性肥料を与えます。

摘心：比較的よく枝分かれして多くの花をつけますが、こんもりと咲かせるには、苗を植え付けたときに茎の先端を軽く摘み取り、わき芽を多く出させるようにします。

切り戻し：茎が伸び過ぎてしまって姿が乱れた株は、高さを2分の1か3分の1ぐらいまで切り戻せば、1カ月前後でまた再生します。

増やし方：5-7月ごろ、10cmほどの長さで切り取り、下葉を除いて水あげした後挿し木します。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
生育状態				生育	開花								
置き場/日光	戸外の日当たり												
水やり				ふつう									
肥料				月1回									
作業			タネまき	切り戻し									

アブラムシ、ボトリチス病の防除



## 18 クレマチス

クレマチスはキンポウゲ科のつる性多年草で、ヨーロッパ、アジアをはじめほとんど世界中に分布しています。

また、テッセンはクレマチス属フロリダ種の和名で、クレマチスの和名ではありませんが、混同されることも多いようです。



### 【管理のポイント】

置き場所：鉢植えの場合は、土壤線虫の感染を防ぐため直接地面に置かないようにします。

せん定：クレマチスは花のつき方で、①昨年伸びた旧枝に花が咲く旧枝早咲き系、②今年伸びた新枝に花が咲く新枝遅咲き系、③中間タイプの3系統に分類され、それぞれ花後の管理がやや異なります。

①タイプは花が終わったら花首程度のせん定にとどめ、その後に伸びる枝を充実させて翌春の開花に備えます。

②タイプは花後に半分ぐらいまで切り戻すと、秋までに再度花を楽しむことができます。

③タイプは1番花が①タイプ、2番花以降が②タイプの傾向があるので、それぞれのせん定方法を併用すれば長期間花を楽しめます。

増やし方：5-7月に充実した枝の2-3節を節の下1cmくらいでカットし、下葉を取って挿し木します。

